札幌市中島児童会館・人形劇場こぐま座　資料室「MA・SO・BO」情報誌

MA・SO・BO通信

TAKE FREE 2025 5>6

寄稿

舞夢サポーターズの取り組みをとおして 誰もが一緒に楽しむを創るということ

舞台手話通訳舞夢サポーターズ　会長　武田啓子

札幌における舞台手話通訳は「札幌ろうあ劇団舞夢」のろう者団員が芝居を観る時に「ろう者と一緒に芝居を楽しみたい」そんな思いから聴者団員が手話通訳をしたことが始まりでした。

当時劇団は「北海道演劇集団」に加盟しており、同じく加盟する劇団の公演に団員が足を運ぶ際には聴者の団員が手話通訳をしました。初めはろう者の隣の席や前の席に後ろ向きに座り手話通訳をしていましたが当然のことながら他の観客から「うるさい」「邪魔」と苦情が出ました。それでも上演する劇団の理解が徐々に広がり舞台袖に手話通訳者が立つようになっていきました。

２００４年「全国ろう者大会in札幌」で「岩を砕きて」という芝居が上演されました。これは第二次世界大戦中たこ部屋で労働を強いられた一人のろう者の経験を芝居にしたものです。役者は札幌ろうあ劇団舞夢の役者が中心になり札幌在住のろう者や手話サークル員です。演出や舞台監督・照明・音声などはすべてプロのスタッフにお願いしました。そこで必要になった「手話通訳者」は札幌市内で活動する手話通訳者が担当しました。通訳する内容は演劇や演技に関する専門的な知識も求められ大変苦戦しました。この時をきっかけに数名の手話通訳者が芝居の手話通訳を手伝うようになり札幌における舞台手話通訳の活動が広がっていきました。

舞台手話通訳の活動とは別に札幌ろうあ劇団舞夢の公演を手伝う手話サークル員もいました。手伝いも広範囲にわたります。聴者役の役者から始まり、声優（ろう者の芝居に声を当てます）・小道具作成・チラシポスター作製・チケット管理・楽屋弁当手配・もぎりなどなど何でもしました。

そんな仲間たちが集まり２００９年に創立されたのが「舞夢サポーターズ」です。当初は札幌ろうあ劇団舞夢の公演手伝いが中心の舞夢サポーターズに北海道演劇集団から演劇祭の手話通訳依頼が舞い込みました。初めての大きな依頼で不安もありましたが会員皆で役割分担をして全力で取り組みました。その後も演劇祭の手話通訳を依頼されストレートプレイはもちろん、司会や腹話術の通訳も担当して貴重な経験を積むことが出来ました。

舞夢サポーターズで活動を始めた当初から舞台手話通訳に対する理解があったわけではありません。「邪魔だから」と花道の端の方に立つよう言われたこともありました。そのたびに心が折れそうになりながら「ろう者も一緒にこの芝居を楽しむためには手話通訳が必要である」事を繰り返し説明して少しずつ理解していただきました。悩みながら活動している舞夢サポーターズが東京の「シアター・アクセシビリティ・ネットワーク（TA－net）」の目に留まり交流が始まりました。今まで手探りで試行錯誤の中続けていた活動が間違っていなかった事、全国にも仲間がいる事を知りとても嬉しかったです。TA－netが主催する舞台手話通訳者養成講座のお手伝いを通して会員も増え活動も広がっていきました。

２０２２年舞夢サポーターズにとって運命ともいえる出会いがありました。やまびこ座で上演される「北のおばけ箱」に手話通訳をつけたいという依頼でした。事務局に届いた公演の内容が「人形劇」「歌あり」「踊りあり」「子供向け」と何もかもが経験したことがないものばかりでした。「出来るだろうか？」とずいぶん悩んだ末にこちらの希望を全て話してみることにしました。「手話監修」「稽古に関わるろう者の情報保障」「ムーブアラウンド型通訳」「役者と衣装を合わせる」「字幕表出」などの希望を携えて断られる覚悟で打ち合わせに参加しました。ところが打ち合わせに参加した事務局から「こちらの希望が全部通った。演出の矢吹さんが『面白いですね！』『いいですね！』『やってみましょう！』と全部受けてくれた」と報告があり、こうなったら受けるしかありません！それから本番までは驚きの連続でした。役者の経験は皆無の手話通訳者にも演出が入り鬼の被り物と「手話通訳さんの分です」とお揃いの衣装も渡され、出演する子供たちが「こっちだよ」と舞台上でうろたえる手話通訳者をフォローしてくれます。演出の矢吹さんはじめスタッフ、役者の子供たち、保護者の皆さんが手話通訳者がいることを「当たり前」と接してくれるのがとても嬉しかったです。『一緒に』という暖かい思いが伝わってきます。２０２３年12月「北のおばけ箱」の公演では聴こえない子と聴こえる子が「同時」に笑い喜ぶ姿を見ることが出来、私たちが目指してきた『ろう者と一緒に芝居を楽しみたい』が叶った瞬間でした。また「一緒に芝居を楽しむ機会を増やしたい」と新たに決意した瞬間でもありました。

武田 啓子（たけだ けいこ）

舞台手話通訳舞夢サポーターズ　会長
札幌生まれ、札幌育ち。就学前に観た人形劇「三匹のこぶた」に魅了され観劇人生をスタートさせる。平成元年度札幌市初級手話講習会を受講。平成１６年に舞台手話通訳に出会い現在に至る。

レポート

人形劇で世界をつなげよう！　世界が笑顔と平和になれる日
札幌発!!「世界人形劇の日 こども人形劇フェスティバル」

永澤さおり
（札幌市こどもの劇場やまびこ座）

「人形劇を演じる人」というとみなさんはどんな人を思い浮かべますか？ 黒い服を着ている人？ 大人の人？ そんなイメージが多いかもしれません。今回は3月20日にやまびこ座で実施した『世界人形劇の日 こども人形劇フェスティバル』についてのレポートです。

札幌は国内屈指の人形劇の街であり、公立初の人形劇専門劇場こぐま座、そしてこども文化の総合施設こどもの劇場やまびこ座という2つの劇場があります。また、札幌市内には児童会館、ミニ児童会館合わせて199館もの児童会館があります。この子どもたちの笑顔があふれる豊かな街から、世界人形劇の日に合わせて、国際連盟（UNIMA）が制定した『World puppetry day（世界人形劇の日）』に開催、総勢80名の子どもたちが出演し、今年で3回目の取り組みとなりました。このような世界の平和を願う記念日に、札幌の子どもたちが人形劇を通して笑顔を届けられることを本当に嬉しく思います。

フェスティバルに参加したのは、札幌市児童会館・千歳市児童館の「人形劇クラブ」9館、こぐま座で活動している「こぐま座こども人形劇団」の計10団体で、全て小学生の子ども達で結成された劇団です。「人形劇クラブ」は、やまびこ座・こぐま座が児童会館と協働し、子どもたちの新たな可能性を引きだし、体験活動を充実させることを目的として、10年ほど前から取り組んできました。私自身、人形劇クラブには3年前から携わり、子どもたちの様子や活動の過程、作品創造に関わっていると、劇団ごと個性があり面白いなと感じます。人形を作るという一つをとっても、デザインに忠実に慎重に作る子、髪の毛の色をカラフルにする子、「この猫、前はノラネコのボス猫をしていたんだ」…原作にはないオリジナルの背景を考える子など、さまざまです。継続して活動を積み重ねてきたクラブは、どんどん協力体制ができてチームワークがよくなり助け合う姿が見られるなど、子どもたちが主体的に活動する様子もみられます。フェスティバルの本番では、普段はそれぞれの場所で活動している子どもたちが、お互いの人形劇を観ながら交流し刺激し合う場になっていたようでした。「あれ、去年も出てたよね？」「〇〇って劇団は今年もいるかなぁ」などの声も聞かれ、人形劇の輪が広がっていることを実感しています。

近年はコロナ禍の影響もあり、子どもたちや親子が生の舞台に触れる機会が少なくなってきています。今回、クラブの中で人形劇や劇場に関わってくれた子どもたちがいつか「人形劇（表現すること）楽しかったな」と思い出し、また足を運んでくれるような、文化芸術の種をまくことにつながる活動をこれからも続けていきたいなと感じました。

『世界人形劇の日 こども人形劇フェスティバル』ダイジェスト版
URL　https://youtu.be/Y5yUAh3FoFog

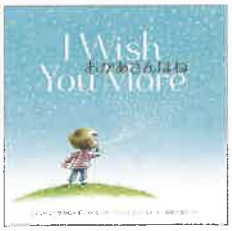
MA・SO・BO 本シェルジュ HON-CIERGE

本の案内人「本シェルジュ」厳選本の紹介
岸さん編 ⑦

岸 春江（きし はるえ）
フリーアナウンサー・絵本ナビゲーター・絵本専門士
自宅に約3000冊の絵本を所有
主宰の「ファンタジアパル」は2019年　北海道読書推進運動協議会　「優良読書グループ　奨励賞」受賞

「おかあさんはね」

作：エイミー・クラウス・ローゼンタール／絵：トム・リヒテンヘルド／訳：高橋　久美子／マイクロマガジン社



子どもが誕生した時に願うことはなんですか？ 私は「健やかな成長」でした。たくさんの喜びと幸せと、少しの苦労を味わいながら、いきいきと育ってほしい――そう願いました。そんな私の想いと重なるようなことばが、この絵本には優しくつづられています。なのに、現実の私は違っていました。気づけば、子どもの成長とともに「ご飯を残さない」「急いで」「勉強しなさい」……そんな小言ばかりの日々。ふと我に返った時、私はこの絵本を開きます。私の願いはなんだったのか。子育ての原点に還らせてくれる大切な一冊であり、娘に残したい、母としての想いが詰まったメッセージブックです。

「密林―きれいなひょうの話」

おはなし：工藤 直子／え：和田 誠／瑞雲舎

はんてんが自慢のひょう。ところが、くしゃみをしたら、はんてんが無くなっていました。さあ大変！ ひょうは、はんてんを探しに出かけます。読者を夢中にさせる工藤直子さんのおはなしに、ほっこり柔らかく見応えのある和田誠さんの絵が織りなす珠玉の一冊です。小学校で読んだとき、ラストで子どもたちが「わーっ！」と声をあげて驚きました。でも、驚くのは結末だけではありません。なんと、この絵本は過去に別の出版社から発行され、一度絶版になっていたのです。復刊がなければ、私たちは出会えなかったかもしれません。表紙だけでは魅力は伝わりきりません。ぜひ手にとって中をご覧ください。もう二度と絶版にならないよう、購入して後世に伝えていきましょう。

編集後記

「舞夢サポーターズ」の意欲的な活動には、素直に感謝と尊敬!! そして私たちもに活力を沸き起こしてくださる存在でもあります。この夏、札幌が取り組むソーシャルインクルージョン機能を有した創作人形劇「北のおばけ箱」を、日本最大級のフェス「いいだ人形劇フェスタ」で披露できることに👏生き生きと演じる子どもたちの姿を観てもらえる、熱い暑い夏になりそうです。（柳本）

MA・SO・BO通信　5・6月号　2025年4月30日発行　第29号
［発行］札幌市中島児童会館・札幌市こども人形劇場こぐま座指定管理者／公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会

お問い合わせ お申し込み
札幌市中島児童会館　tel 011-511-3397
札幌市こどもの劇場こぐま座 tel 011-512-6886
〒064-0931 札幌市中央区中島公園1番1号
（地下鉄南北線「中島公園駅」3番出口より徒歩1分）

MA・SO・BOに関する最新情報、MA・SO・BO通信のバックナンバーはホームページからもご覧いただけます。